

コロナ禍だけど・・・ 認知症のこと気になりませんか？

令和3年6月23日

桜ヶ丘記念病院(認知症疾患医療センター)

精神保健福祉士 山田 悠佳

本日のお話

❖ 認知症について

- 認知症って、どんな病気？
- 認知症の経過と利用できるサービス
- 事例

❖ 最後に



最寄り駅：京王線 聖蹟桜ヶ丘駅

病床数：467床

50床・・・認知症治療病棟

敷地面積：東京ドームの1.1倍



認知症って・・・？

◆怖い？大変な病気？

◆何も分からなくなって、何も出来なくなってしまおうの？



認知症と物忘れ

脳や身体の病気が原因で一度獲得された知的機能が全般的に低下し、社会生活や日常生活に支障を来たすようになった状態。

	加齢に伴う物忘れ	認知症の物忘れ
記憶障害	体験の一部を忘れる	全体を忘れる
実行機能障害	記憶障害のみがみられる	記憶障害に加えて、判断の障害や実行機能障害がある
自覚	物忘れを自覚している	もの忘れの自覚に乏しい
	探し物も努力して見つけようとする	探し物も誰かが盗ったということがある
見当識障害	見当識障害はみられない	見当識障害がみられる
	日常生活に支障はない	日常生活に支障をきたす
進行	緩徐に進行する	進行性

加齢によるもの忘れ

記憶の流れ

一部を忘れる
記憶の帯はつながっている

- ・ 体験の一部を忘れる。
- ・ ヒントがあれば思い出せる。



認知症

記憶の流れ

全体を忘れる
記憶が抜け落ちる

- ・ 体験したこと自体を忘れる。
- ・ ヒントがあっても思い出せない。



中核症状と行動心理症状



中核症状

◆記憶障害

- さっき聞いたことが思い出せない
- 覚えていたはずの記憶が失われる



◆実行機能障害

- 前もって計画をたてることができない
- 家電や自販機などが使いこなせない



◆見当識障害

- 時間・季節・場所等の感覚が分からなくなる
- 道順などが分からなくなる



◆理解・判断力の障害

- 考えるスピードが遅くなる
- いつもと違うことで混乱しやすくなる



行動心理症状 (BPSD)

◆幻覚

現実にはいない人が見える、声が聴こえる



◆妄想

ものを盗られたと訴える



◆徘徊

記憶障害などの要因により歩き回る



◆不安・焦燥

不安感、日常の些細なことを心配する



◆うつ

気が沈む



◆せん妄

急な一時的意識障害



◆暴言・暴力

大きな声をあげる
暴力をふるう



◆性的行為

不適切な性的な言動



◆不穏・興奮

落ち着かない
イライラしやすい



◆拒絶

介護者に反抗的な態度を示し拒否する



認知症の種類（主なもの）

認知症にはその原因などにより、いくつか種類があります。

■ 前頭側頭葉型認知症

◆ 脳の前頭葉や側頭葉で、神経細胞が減少して脳が萎縮する病気です。

【症状】

感情の抑制がきかなくなったり、社会のルールを守れなくなるといったことが起こります。

■ レビー小体型認知症

◆ 脳内にたまったレビー小体という特殊なたんぱく質により脳の神経細胞が破壊されおこる病気です。

【症状】

現実にはないものが見える幻視や、手足が震えたり筋肉が固くなるといった症状が現れます。歩幅が小刻みになり、転びやすくなります。

■ 脳血管性認知症

◆ 脳梗塞や脳出血によって脳細胞に十分な血液が送られずに、脳細胞が死んでしまう病気です。高血圧や糖尿病などの生活習慣病が主な原因です。

【症状】

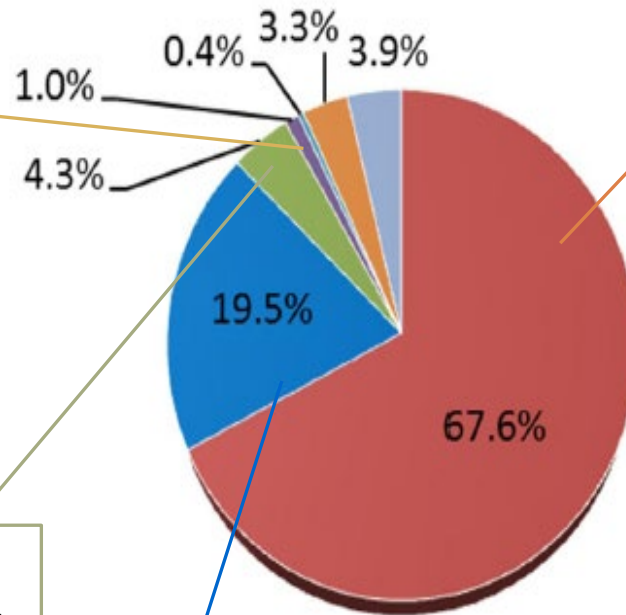
脳血管障害が起こるたびに段階的に進行します。また障害を受けた部位によって症状が異なります。

■ アルツハイマー型

◆ 脳内にたまった異常なたんぱく質により神経細胞が破壊され、脳に萎縮が起こります。

【症状】

昔のことはよく覚えていますが、最近のことは忘れてしまいます。軽度の物忘れから徐々に進行し、やがて時間や場所の感覚がなくなっていきます。



(その他の凡例)

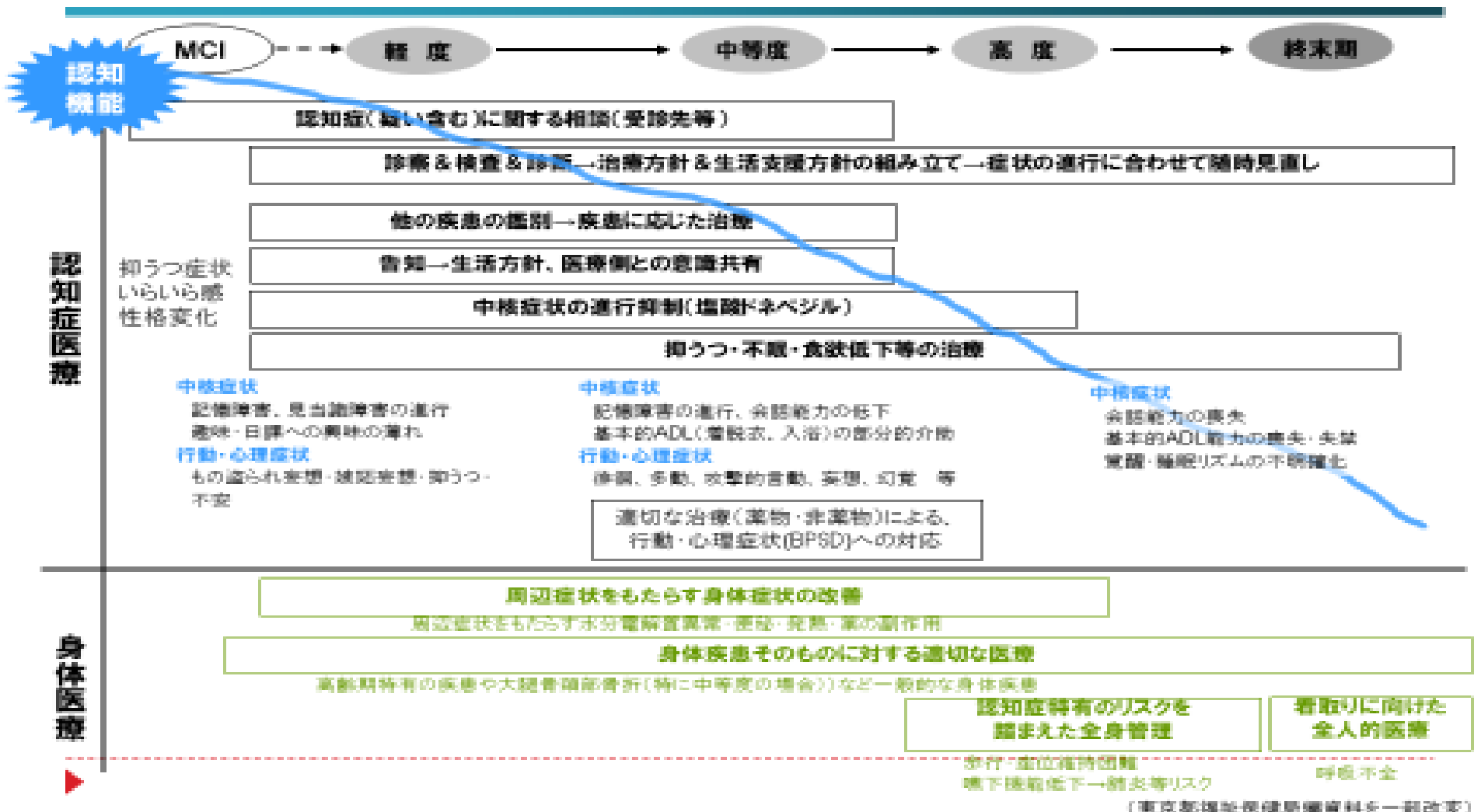
- アルコール性
- 混合型
- その他

各説明は、全国国民健康保険診療施設協議会「認知症サポーターガイドブック」を元に作成

データは、「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」（H25.5報告）及び『「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者数について』（H24.8公表）を引用

認知症の経過と必要な医療

(アルツハイマー型認知症等
変性疾患の場合)



初期～軽度

- 物忘れはあるが、金銭管理や買い物など日常生活は自立している
- 金銭管理や服薬管理は、一人では間違えることもあるが、サポートがあれば生活はできる

- 老人クラブ
- シルバー人材センター
- 配食サービス
- 認知症カフェ
- 家族会、当事者の会
- かかりつけ医
- 地域包括支援センター
- デイサービス
- ホームヘルプ
- 介護予防教室
- 地域権利擁護事業
- 成年後見制度

中等度

- 物忘れが増え、着替えやトイレなどの日常生活も一人で行なうことが難しくなる。
- 声かけや見守りなど、周囲のサポートがあれば出来ることもある。

- 配食サービス
- 見守りサービス
- 自治会
- 趣味サークル

- 認知症カフェ
- 家族会、当事者の会

- かかりつけ医
- 認知症疾患医療センター

- デイサービス、ショートステイ
- 訪問看護
- 小規模多機能型居宅介護
- GPS、徘徊探知機
- おむつ助成

- グループホーム
- 介護老人保健施設

重度

- 常時、介護が必要な状態で意思の疎通を取ることが難しくなる。

- 見守りサービス
- 認知症カフェ
- 家族会、当事者の会
- かかりつけ医
- 訪問診療
- 認知症疾患医療センター
- 小規模多機能型居宅介護
- 療養型病院
- 介護老人保健施設
- 特別養護老人ホーム
- 有料老人ホーム

事例

A子さん 80歳代、女性

- 若い頃から働き者で、今までずっと働いてきました。ご主人が亡くなってからは一人暮らしをしています。
料理上手で友人も多く、楽しみはカラオケや旅行へ行くことです。
- ご家族はいますが、遠くに住んでいて、なかなか顔を合わすことは出来ていません。



-
- 少し前から家事をすることが億劫になり、好きだった料理も今までのように出来なくなり、あまり料理をしなくなっていました。近所へ買い物へ行っても、支払いを間違えてしまい、店員さんから指摘をされることが何度かありました。
 - 次第に出掛けることも億劫になり、友人から声を掛けられても断ってしまうことが多くなりました。A子さんは自宅で一人で過ごす時間が増え、不安な気持ちでいることが多くなっています。

-
- 「私はこれからどうしたらいいのかわからない・・・」と不安になったA子さんは友人に勧められて、B市役所へ行きました。地域包括支援センターを教えてください、訪ねました。
 - 地域包括支援センターで日々の不安やこれからのことを相談に乗ってもらうことができ、少し気持ちも軽くなりました。その時に認知症カフェというものがあると聞き、参加してみることにしました。

-
- 認知症カフェに参加したり、地域包括支援センターの職員と談笑したり、相談をすることが出来るようになり、Aさんの不安も少しずつ軽くなっていきました。
友人や家族だけでなく、地域の人とつながりを持つことで、日々を楽しみ、安心して生活することが出来るようになりました。



健康と要介護の中間の時期

可逆性

多面性



ドミノ倒しにならないように！



(東京大学高齢社会総合研究機構・飯島勝矢：作図改編)

東京大学 高齢社会総合研究機構・飯島勝矢ら
厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)「虚弱・サルコペニアモデルを踏まえた高齢者食生活支援の枠組みと包括的介護予防プログラムの考案および検証を目的とした調査研究」(H26年度報告書より)

最後に・・・

- 認知症は怖い病気ではありません！
- 困った時は、『お互いさま！』
- 「なんとなく心配。」、「ちょっと気になるから、相談したい。」と思った時や日常生活で困ったことがあった時には、ぜひ誰かに話してみてください！

ご清聴、ありがとうございました！！

